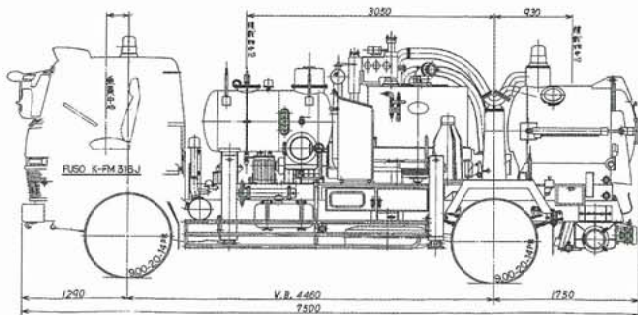


1981 側溝汚泥吸引脱水車 FP-643D



品 名：側溝汚泥吸引脱水車

開発目的：側溝汚泥を1台の車で吸引脱水処理する。

特 徴：側溝汚泥をブロワーで吸引、直接脱水機に投入し、脱水後のケーキはブロワーでレシーバータンクに搬送する。

型 式：FP-643D

仕 様：風量41m³/min, 真空圧-450mmHg, 43インチバスケット

開発年月：1981年2月（昭和56年2月）

開 発 者：下村賀基

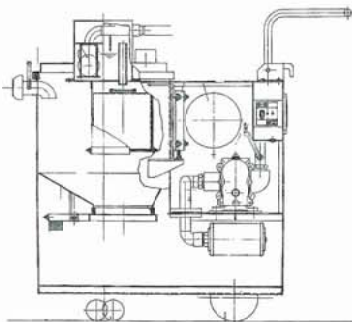
販 売 者：浜口卓三

納 入 先：建設省大阪国道工事事務所殿

納入年月：1981年3月（昭和56年3月）

エピソード：建設省殿と共同で開発、特に脱水機は建設省殿より支給されました。

1981 クリーンメイト CM-01



品 名：クリーンメイト

開発目的：ポンプで回収出来ない様な薄い層の残水や床面の清掃が簡単に行える装置として開発。

特 徴：吸引機構は従来のルーツブロワー形式でタンク等を1体にし小型化を図ったもので、水ポンプとしての機能と残水処理、床面掃除機として利用できるもの。

型 式：CM-01

仕 様：0.48m³/min, 真空圧-400mmHg 吸引口φ38
総重量：100kg

開発年月：1981年6月（昭和56年6月）

開 発 者：北條英二

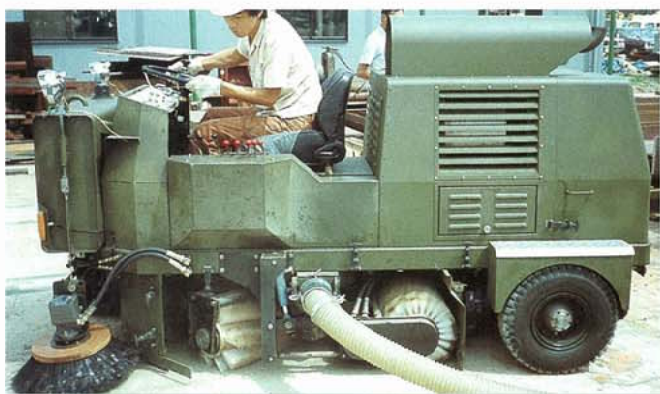
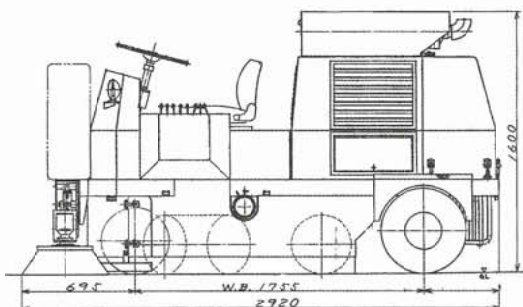
販 売 者：大谷昌永

納 入 先：(株)トーヨーリース殿

納入年月：1981年7月（昭和56年7月）

エピソード：残水処理機として開発したが用途が市販の業務用掃除機に近くなりすぎた。

1981 自走アタッチメント AT-40BR



品 名：自走アタッチメント

開発目的：製鉄所構内作業場・路面等のスィーパー作業を行う。

特 徴：サイドブラシ左右各1個、V字型に配列されたメインブラシ2個、さらにその後部に本機に直角に配列されたメインブラシ1個の計5個のブラシを有す。

型 式：AT-40BR

仕 様：清掃巾1560mm，清掃速度0～4km/h

開発年月：1981年8月（昭和56年8月）

開 発 者：下村賀基

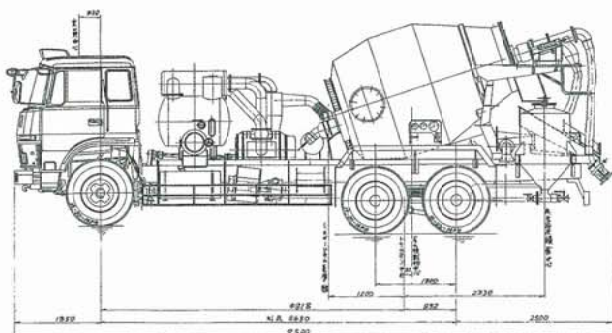
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：(株)上組殿

納入年月：1981年9月（昭和56年9月）

エピソード：フレーム、走行装置、ステアリング等を自作し、凝った造りとなった。

1981 モービルライムドライヤー MD-11B



品 名：モービルライムドライヤー

開発目的：脱水車で処理した有機系のケーキと生石灰を混練し、肥料を作る。

特 徴：混練、排土をミキサードラムにて行う。

型 式：MD-11B

仕 様：ミキサー車をベースに吸引機を取付けする。

開発年月：1981年8月（昭和56年8月）

開 発 者：吉田 奨

販 売 者：浜口卓三

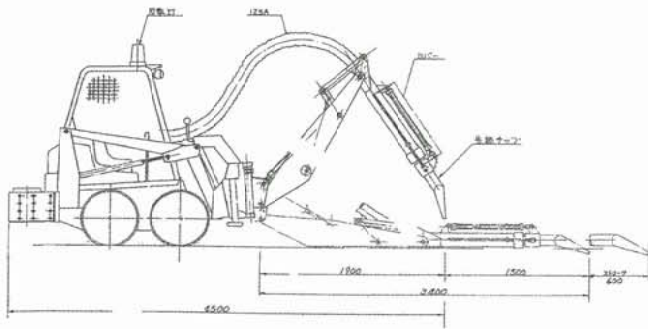
納 入 先：和城産業(株)殿

納入年月：1981年9月（昭和56年9月）

エピソード：中古のミキサー車より開発・実験を開始した。納入後も実験に明暮れた。

県外の生石灰を使用して分かったのは高知で作る石灰の純度の高さであった。消すことの出来ない苦労の多さで思い出深い車である。

1981 ボブキャットアタッチメント BCA-10



品 名：ボブキャットアタッチメント

開発目的：危険防止と省力化。

特 徴：製鉄所構内側溝汚泥専用回収アタッチメント。

型 式：BCA-10

開発年月：1981年10月（昭和56年10月）

開 発 者：永野和昭

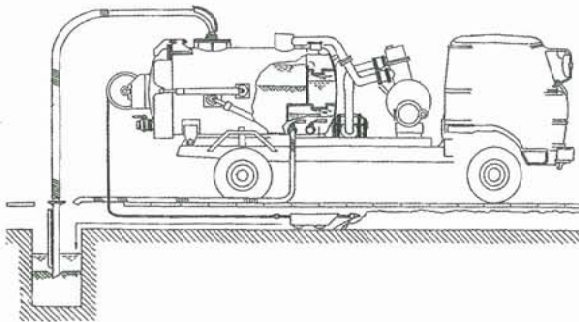
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：川崎製鉄(株)水島製鉄所殿

納入年月：1981年12月（昭和56年12月）

エピソード：鉾石～石炭ヤード、側溝堆積の落鉾～落炭を専用に回収するアタッチメントとしてパワープロベスターとセットで使用する。手作業から開放されて油圧レバーで操作できる為作業はワンマンのできるメリットがある。

1981 上澄水自動排出装置付吸引車 FP-04BJ



品 名：上澄水自動排出装置付吸引車

開発目的：汚水再利用型下水洗浄車（リサイクルコンビ）の機能を評価するため試作した。

特 徴：吸引した汚水を圧力差のみで上澄水を真空タンクの中から排出する機構や汚濁に強い高圧水ポンプや作業アームなどリサイクルコンビとしての各機能を搭載した作業車。

型 式：FP-04BJ

仕 様：風量18m³/min, 真空圧-450mmHg

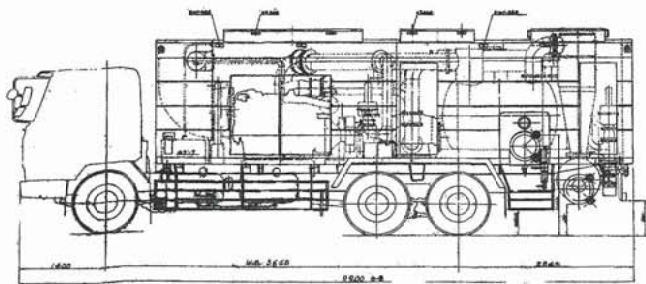
開発年月：1981年12月（昭和56年12月）

開 発 者：北條英二

納 入 先：試作

エピソード：この頃リサイクルコンビ車の商談があり当社として独自のリサイクルシステムの検証を行う為に試作を行った。

1982 パワープロベスター AD-11SW



品 名：パワープロベスター

開発目的：製鉄所向け高真空、大風量吸引車。

特 徴：製鋼工場の定修時に吸引距離延べ400m（吸引箇所10ヶ所）でダスト等を回収できる。

型 式：AD-11SW

仕 様：風量93m³/min, 真空圧-700mmHg

開発年月：1982年1月（昭和57年1月）

開 発 者：永野和昭

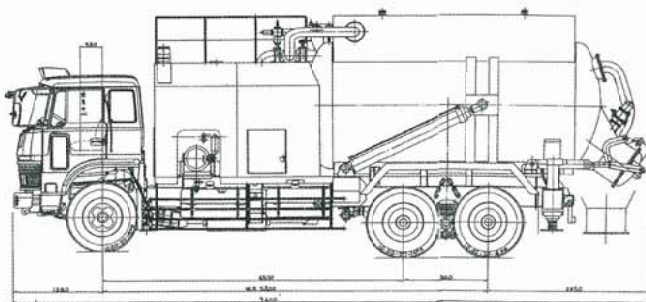
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：川鉄運輸株殿

納入年月：1982年3月（昭和57年3月）

エピソード：ダブル型ブロワー（直列）搭載第1号車。全ての機器が大きく、又カバー内への設置であり、設計に苦労した。

1982 パウダークリーン SP-11BYT



品 名：パウダークリーン1号車

開発目的：製鉄所で発生する粉体（コークス・石灰）を吸引回収し、圧送により原料槽に返す。

特 徴：吸引装置関係はK&E設計・製作、レシーバータンク関係Y社設計・製作、全体組立・運転K&E。

型 式：SP-11BYT

仕 様：風量41m³/min, 真空圧-500mmHg

開発年月：1982年4月（昭和57年4月）

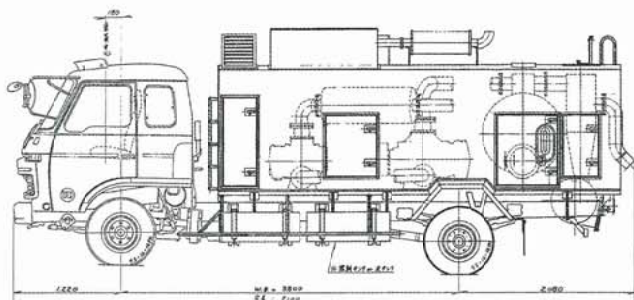
開 発 者：石村 章

販 売 者：武市芳夫

納 入 先：川鉄運輸株殿

納入年月：1982年4月（昭和57年4月）

エピソード：全体組立時には、Y社設計担当が来社し、お互いに現場につきっきりであった。他社の設計者と仕事をする事は、非常に良い刺激になり、勉強になった。（飲む事も）

1982 パワープロベスター AD-04SW

品 名：パワープロベスター

開発目的：多目的型高真空、防音型吸引車

特 徴：4トン車搭載の高能力で音が静かな、セパレート型吸引車。

型 式：AD-04SW

仕 様：風量41m³/min, 真空圧 -700mmHg

開発年月：1982年12月（昭和57年12月）

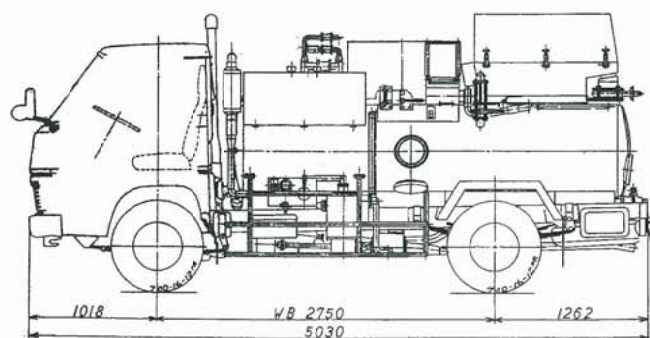
開 発 者：岡崎孝義

販 売 者：栖原 浩

納 入 先：一紅産業(株)殿

納入年月：1983年2月（昭和58年2月）

エピソード：4トン車のスペースでダブル型ブロワーとなる為、バランス良く配置するのに苦労した。

1983 モービルコンカー MP-310DSP

品 名：モービルコンカー

開発目的：浄化槽汚泥の減容化。

特 徴：現場で浄化槽の汚泥をロータリースクリーンで濃縮し、濾液はもとの槽に返し、固形分のみ回収する。

型 式：MP-310DSP

開発年月：1983年3月（昭和58年3月）

開 発 者：下村賀基

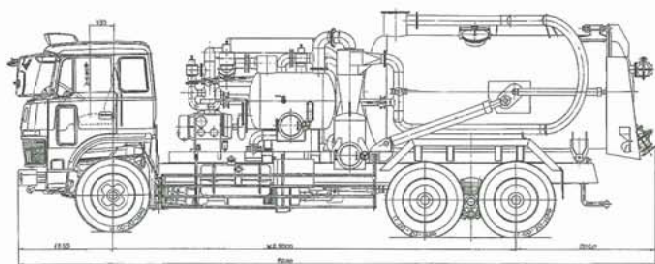
販 売 者：西 利文

納 入 先：(株)昭和衛生ビル管理センター殿

納入年月：1985年2月（昭和60年2月）

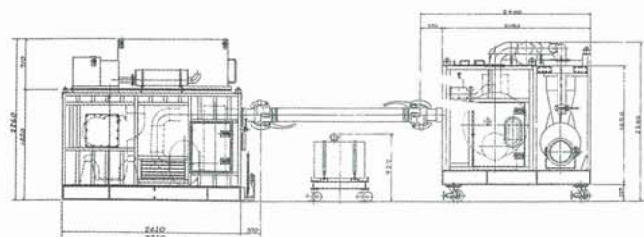
エピソード：通常浄化槽汚泥は全量バキュームカーで回収し、し尿処理場に運搬・処理していましたが、処理場の能力を超えるケースが増えた為、この車両のニーズができました。

1983 パワープロベスター SP-11BXP



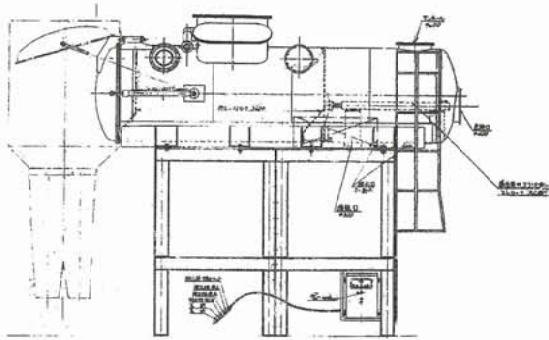
- 品 名：パワープロベスター（並列、直列切換型）
 開発目的：吸引風量もしくは真空圧を最大限に利用し、吸引回収量を多くする事を目的とした。
 特 徴：吸引回収物の性状等条件によって風量優先、真空圧優先と2通りの性能を選べる。
 型 式：SP-11BXP
 仕 様：並列使用時風量65m³/min 直列使用時41m³/min
 並列使用時真空圧-520mmHg 直列使用時真空圧-700mmHg
 開発年月：1983年（昭和58年5月）
 開 発 者：岡崎孝義
 販 売 者：佃 維男
 納 入 先：青木環境事業(株)殿
 納入年月：1983年6月（昭和58年6月）
 エピソード：吸引車としては最高のアイデアだと思ったが、2段ブロー並列時のバランスが思わしくなく、あまり効果がなかった。

1983 既設埋設管の再成システム DE-88S (改)



- 品 名：既設埋設管の再成システム
 開発目的：ビル内での作業、運搬を簡単にし、騒音対策をする。
 特 徴：動力ユニットと、ACユニットを切り離し、ホースにて連結。
 型 式：DE-88S(改)
 仕 様：風量42.5m³/min, 真空圧 -450mmHg
 開発年月：1983年9月（昭和58年9月）
 開 発 者：岡崎孝義
 販 売 者：西 利文
 納 入 先：西日本ライニング(株)殿
 納入年月：1983年11月（昭和58年11月）
 エピソード：水道管の内部に赤さびが発生して、その結果つまりが発生する。そのさび落としの為に水道管の片方よりプラスト材を入れ片方で吸引する。そうする事によりプラストが管内部を研磨しきれいに清掃する。ビル内部に持ち込む必要があった為、機械の大きさの制限、および防音には気を使いました。特に連結部より漏れる音には苦労しました。

1983 石綿回収・袋詰めタンク SR-100Y



品 名：石綿回収・袋詰めタンク

特 徴：石綿を吸引機で回収、クローズドシステムで袋詰めする装置である。

型 式：SR-100Y

開発年月：1983年10月（昭和58年10月）

開 発 者：下村敏春

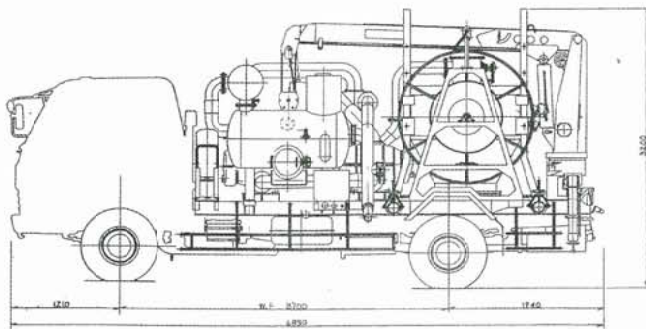
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：川鉄運輸(株)殿

納入年月：1983年10月（昭和58年10月）

エピソード：製鉄所構内酸素工場保温材の石綿（ロックウール）は、発癌物質の為、従来の手作業袋詰めから吸引回収→袋詰め方式に変更する為、回収タンク内にプッシャーを取り付け排出シュートを介して袋詰めとした。

1984 活性炭回収専用吸引車 FP-04SWC



品 名：活性炭回収専用吸引車

開発目的：脱着式自動排出レシーバータンク設置車。

特 徴：自動排出レシーバータンクをクレーンで箱ダンプカー上に設置して吸引回収を行うことができる。

型 式：FP-04SWC

仕 様：風量41m³/min, 真空圧-600mmHg

開発年月：1984年3月（昭和59年3月）

開 発 者：吉田 奨

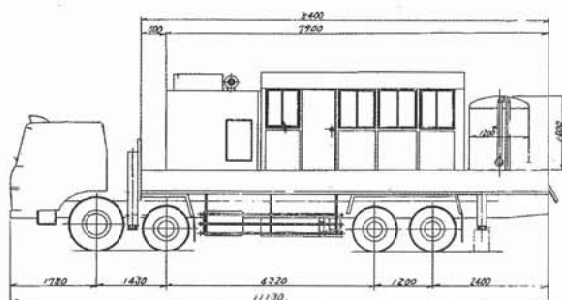
販 売 者：佃 維男

納 入 先：矢野口自工(株)殿

納入年月：1984年5月（昭和59年5月）

エピソード：細かい部品が多く、詳細機能についてはK&Eが初期設定した。中間検収時改造が多く困ったがユーザーには気に入ってもらったと思う。

1984 トンネル洗浄水脱水処理装置 DE-048D



品 名：トンネル洗浄水脱水処理装置

開発目的：トンネル内洗浄水の処理。

特 徴：トンネル内壁を洗浄した汚水を脱水し、固形分はケーキとして回収。排水は活性炭により吸着処理し、放流する。

型 式：DE-048D (特)

仕 様：バスケット型遠心分離、活性炭濾過

開発年月：1984年7月 (昭和59年7月)

開 発 者：沢本記男

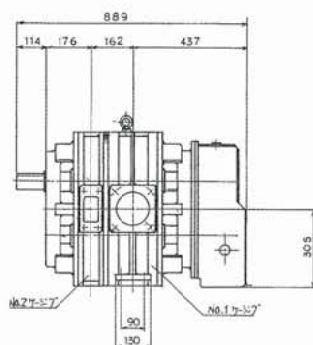
販 売 者：浜口卓三

納 入 先：日本道路公団十和田管理事務所殿

納入年月：1984年8月 (昭和59年8月)

エピソード：モバイルバスケットの脱水設備に大型の活性炭吸着塔を追加する事により、それまで困難であった脱水排水の河川への直接放流を可能にした。

1984 モービルバック MP-04BHP



品 名：モービルバック (2段1体型ブロワー搭載1号車)

開発目的：高能力モービルバックの開発及びルーツブロワーのコンパクト化を図る。

特 徴：2つのブロワーを一体化した為、架装が容易になり、さらにレシーバータンク容量が大きくとれた。

型 式：MP-04BHP

仕 様：風量18m³/min, 真空圧-650mmHg

開発年月：1984年11月 (昭和59年11月)

開 発 者：石村 章

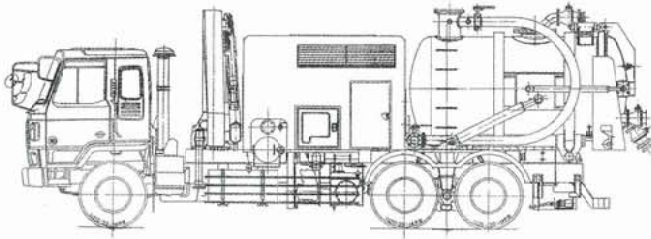
販 売 者：大口栄一

納 入 先：(株)建設サービス奈良殿

納入年月：1985年5月 (昭和60年5月)

エピソード：-700mmHgの真空圧を目指したが冷却水のとじ込み現象による異音が発生し、やむなく-650mmHgに計画変更した。さらに完成後、受注までに約6か月を要した。1号車を販売してくれた大口さん、又買ってくれた(株)建設サービス奈良さんには感謝します。今では主力製品となりました。

1984 パワープロベスター AD-11BCP



品 名：パワープロベスター

開発目的：製油工場内での多目的作業車として開発

特 徴：1台の作業車に吸引、道路清掃、クレーン、牽引、加圧圧送(2圧)と多くの機能を盛り込んだ。

型 式：AD-11BCP

仕 様：風量42.5m³/min, 真空圧 -450mmHg

開発年月：1984年12月（昭和59年12月）

開 発 者：北條英二

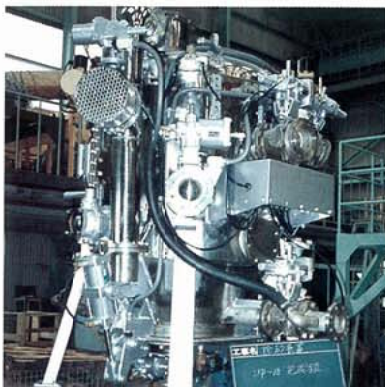
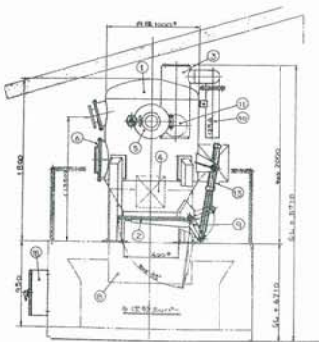
販 売 者：大谷昌永

納 入 先：シンガポール、モービルオイル殿

納入年月：1985年3月（昭和60年3月）

エピソード：レシーバータンクは第2種圧力容器となり使用した全面開放型円筒タンクの容器検定を受ける為、初めてクラッチドアを採用した。

1985 自動排水切りタンク SKP-10



品 名：自動排水切りタンク

開発目的：し尿処理場の沈砂を洗浄して回収する。

特 徴：回収した沈砂をエアバブリングし、砂を洗浄する。

型 式：SKP-10

開発年月：1985年2月（昭和60年2月）

開 発 者：下村敏春

販 売 者：竹内 隆

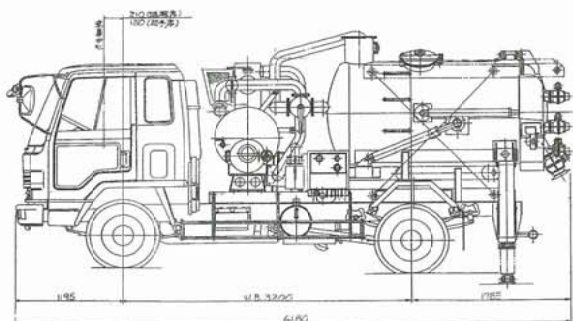
納 入 先：浜松市東部下水処理場殿

納入年月：1985年3月（昭和60年3月）

エピソード：設置が屋内の為、大きさに制限があった。

実際搬入したときは、他の機械が設置されており苦労した。水切りをする水位の設定に苦労した。

1985 モービルバック MP-04BPL



品 名：モービルバック

開発目的：箱ダンプカーに排出できる吸引機構。

特 徴：リンク式でレシーバータンクがリフトしながらダンプアップする。

型 式：MP-04BPL

仕 様：風量 $18\text{m}^3/\text{min}$ 、真空圧 -520mmHg

開発年月：1985年7月（昭和60年7月）

開 発 者：下村敏春

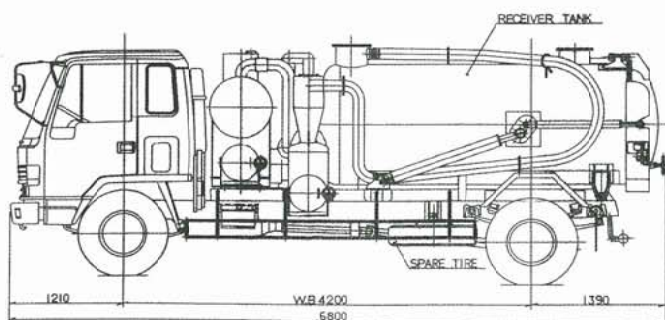
販 売 者：川崎隆義

納 入 先：(株)日本清掃開発殿

納入年月：1985年7月（昭和60年7月）

エピソード：当初はリンクの摩擦の為、重くて推力が出なかった。リンクのクリアランス等を変更し、やっと最大までリフトアップすることができた。

1986 ナッシュポンプ搭載吸引作業車 MP-04B (特)



品 名：ナッシュポンプ搭載吸引作業車

開発目的：真空圧を -720mmHg にする為、ナッシュポンプを搭載。

特 徴：久保田鉄工(株)製ポンプを採用。

型 式：MP-04B (特)

仕 様：風量 $12\text{m}^3/\text{min}$ 、真空圧 -720mmHg

開発年月：1986年10月（昭和61年10月）

開 発 者：市川 治

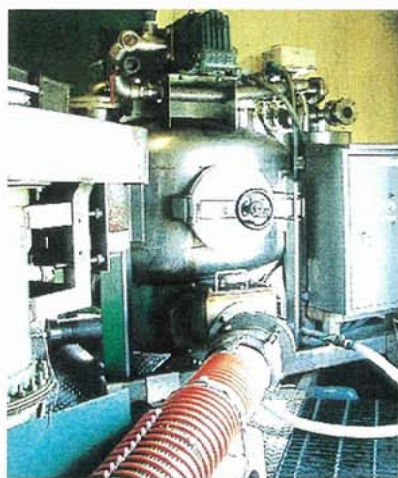
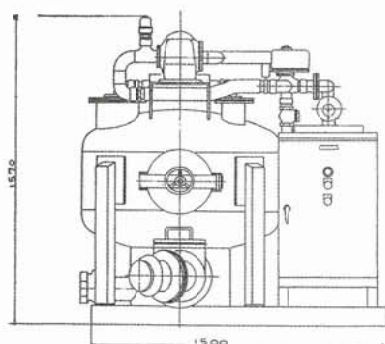
販 売 者：大谷昌永

納 入 先：台湾（台北市）

納入年月：1986年11月（昭和61年11月）

エピソード：輸出検査がきびしく同じ製品にするのが難しかった（6台口）
また、一部形が仕様と異なった為、大きく改造した。

1986 連続吸排機 CD-08RMS



品 名：連続吸排機（漬物吸引機）

開発目的：漬物（ピクルス）を脱塩槽から取り出し工場の加工ラインへ供給する目的で開発。

特 徴：1個のレシーバータンクで吸引及び圧送を交互に行うもので、塩水が多く本体ステンレス製で漬物を出来るだけ傷めないよう、ゆっくりと吸引圧送する必要がある。

型 式：CD-08RMS

仕 様：風量2.9m³/min, 真空圧-450mmHg

吐出圧0.6kg/cm²

開発年月：1986年10月（昭和61年10月）

開 発 者：北條英二

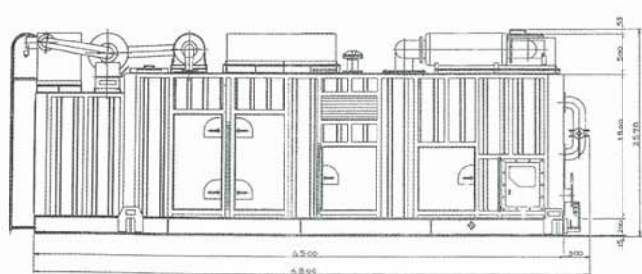
販 売 者：大谷昌永

納 入 先：東洋園芸食品(株)殿

納入年月：1986年10月（昭和61年10月）

エピソード：従来は機械式コンベヤにて漬物を回収していたが、本機導入後漬物の歩留まりが大幅に改善されたと好評。

1986 バラスト吸引機 DE-140S



品 名：バラスト吸引機

開発目的：地下鉄における道床バラストの吸引回収。

特 徴：地下鉄である為、防音・排ガス対策を施工している。回収タンクと共に台車上に架装したオンレールタイプ。

型 式：DE-140S

仕 様：風量70m³/min, 真空圧-500mmHg

開発年月：1986年8月（昭和61年8月）

開 発 者：下村敏春

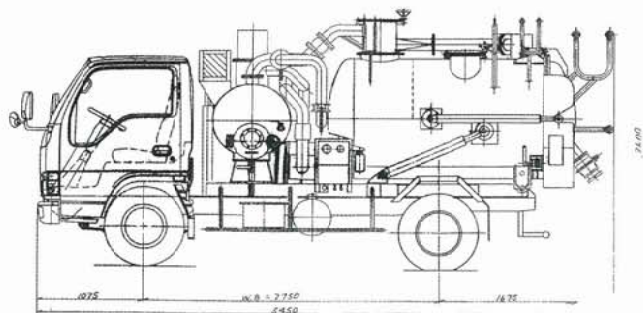
販 売 者：川崎隆義

納 入 先：帝都高速度交通営団

納入年月：1986年11月（昭和61年11月）

エピソード：水冷エンジン駆動防音型吸引1号機であり、騒音値の要求も厳しかったので防音には苦労した。回収タンクは他社の製作であったが防音材として"畳"を使用した。

1986 クリンカー MP-04C



品 名：クリンカー

開発目的：瓦葺替時の赤土清掃車として開発。

特 徴：大型2次キャッチャー取付。

型 式：MP-04C

仕 様：風量18m³/min, 真空圧 -520mmHg

開発年月：1986年12月（昭和61年12月）

開 発 者：山崎良二

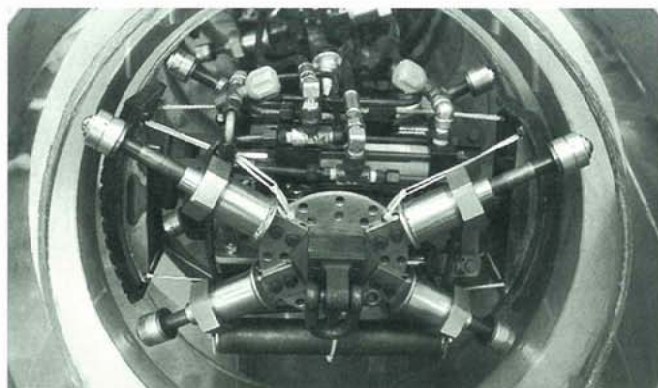
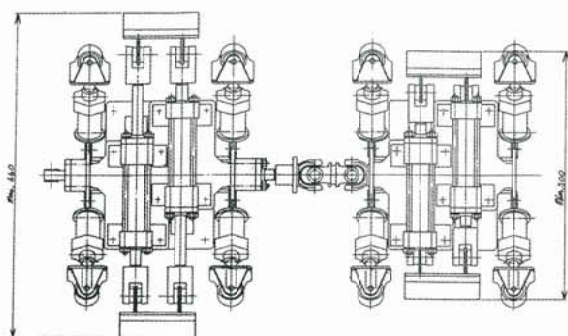
販 売 者：下村賀基

納 入 先：石州瓦販売(株)殿

納入年月：1986年12月（昭和61年12月）

エピソード：瓦下の赤土が思った以上に軽くて2次キャッチャーへの廻り込みが早く吸引管の入れ方も工夫した。

1987 貝剥離装置 RD-06



品 名：貝剥離装置（循環水配管清掃ロボット）

開発目的：原子力発電所取水配管に付着する海生物の除去装置の1/6模型。

特 徴：管内壁の塗装を傷付けない様な装置。

型 式：RD-06

仕 様：φ600mmの管内を水平、垂直に走行する。

開発年月：1987年1月（昭和62年1月）

開 発 者：吉田 奨

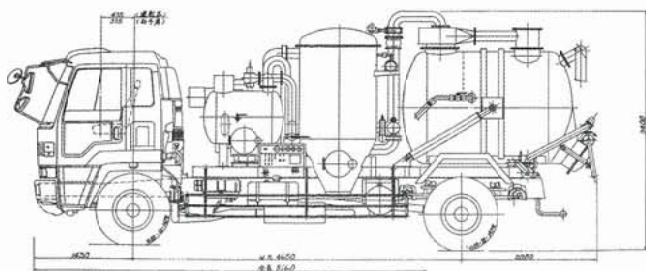
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：原子力代行(株)殿

納入年月：1987年2月（昭和62年2月）

エピソード：尺取り虫の動きをさせたがまっすぐ進むのが困難。テスト時に管内にグリスを洗剤で薄め塗布したがすべった。

1987 乾湿切換吸排車 SP-08BYT



品 名：乾湿切換吸排車

開発目的：乾いた物、液体の両方が扱える機械。

特 徴：バグフィルターをレシーバータンク外に置き
ラインを切換えて作業できる。

型 式：SP-08BYT

仕 様：風量32m³/min, 真空圧 -450mmHg

吐出圧1.9kg/cm, 吐出風量6m³/min

開発年月：1987年3月（昭和62年3月）

開 発 者：永野善彰

販 売 者：武市芳夫

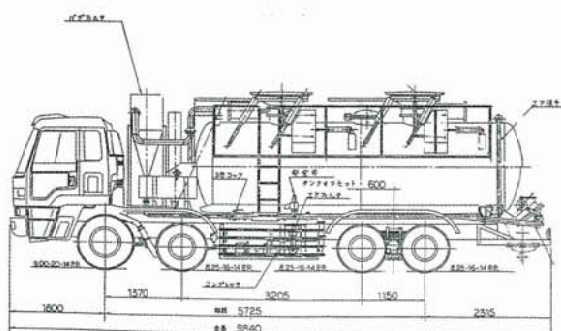
納 入 先：御影運輸株式会社

納入年月：1987年3月（昭和62年3月）

エピソード：吸引対象物がさまざま排出口より出なくて
いくつかの対策を行った。

タンク内の仕切り部のシール性が悪く、水が
吹き出た。

1987 エア圧送ダスト運搬車 AR-11AYT



品 名：エア圧送ダスト運搬車

開発目的：電気集塵機で補修したダスト（主にカーボン）
を運搬し、原料槽に圧送する。

特 徴：構内専用車。上部投入口は油圧開閉式、ダスト
投入時タンク内エアーは、ファンにて吸引し、
バグフィルター室に投入。また、ダンプアップ
はテレスコピックシリンダー（1本）にて行う。

型 式：AR-11AYT

仕 様：タンク容量11m³, 吐出風量8.3m³/min

吐出圧1.9kg/cm²

開発年月：1987年3月（昭和62年3月）

開 発 者：石村 章

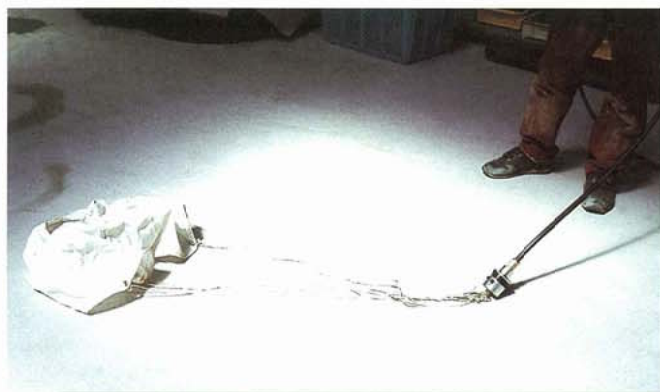
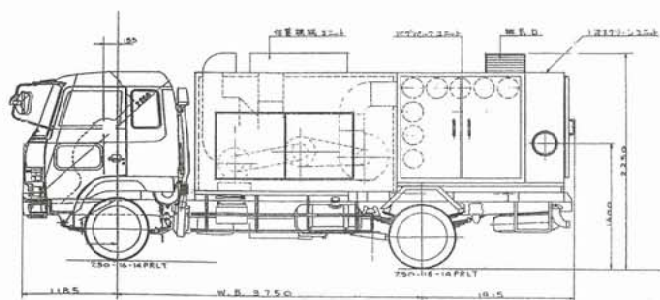
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：（株）鉄原（大分支店）殿

納入年月：1987年4月（昭和62年4月）

エピソード：本機の販売は当社であったが設計、製作はY社
に委託（当社OEM1号車）。納入後トラブルが
多発し役員と共に飛んでいったこと、大分空
港からのホバークラフトの「気分が悪かった」事
を思い出す。

1987 空調ダクト清掃車 DC-65TB



品 名：空調ダクト清掃車

開発目的：地下街やビルの空調ダクトの内面に溜まったほこりや汚れを清掃する目的。

特 徴：パラシュート型で清掃ノズルを引き込んで行く方法。

型 式：DC-65TB

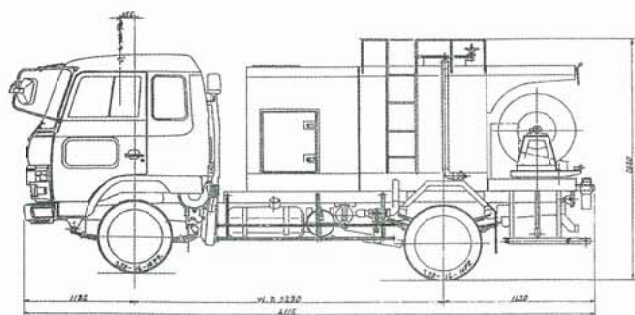
開発年月：1987年4月（昭和62年4月）

開 発 者：北條英二

納 入 先：試作

エピソード：夜間の地下街の空調ダクトの中を一晩中はいずり回って掃除してみたが、種々雑多な断面形状、配置など大変な仕事であった。システムとしてはパラシュート型で清掃ノズルを引き込んで行く方法でアプローチしたが商談成立には至らず。

1987 高圧洗浄車 JF-04R



品 名：高圧洗浄車（モービルジェット1号車）

開発目的：下水管の洗浄車。

特 徴：角型タンクであり手動レバーの切換方式
米国マイヤー社のポンプを使用。

型 式：JF-04R

仕 様：吐出水量190L/min，吐出圧200kg/cm²

開発年月：1987年3月（昭和62年3月）

開 発 者：久米信明

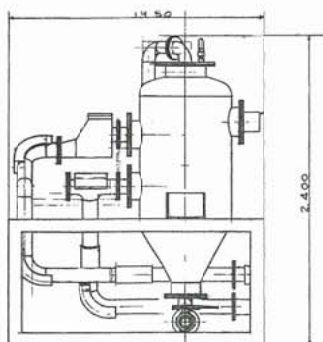
販 売 者：佃 維男

納 入 先：環清工業(株)殿

納入年月：1987年5月（昭和62年5月）

エピソード：設計にあたり、必要な機能及び操作面のノウハウが無く先発メーカーを調査し、良い面だけを取り入れた高圧洗浄車に仕上げた。

1987 連続吸排機 CD-19EW



品 名：連続吸排機

開発目的：大量長距離輸送というニーズに答える為、連続的に吸引作業の行える機械として開発した。

特 徴：別置きコンプレッサーの圧縮空気をエゼクターにて真空変換するとともに余った圧縮空気を加圧圧送に利用する。2台のタンクが交互に吸引圧送を繰り返す事で連続的に作業する。

型 式：CD-19EW

仕 様：吸入風量 $8\text{m}^3/\text{min}$ 、真空圧 -700mmHg
吐出風量 $6.5\text{m}^3/\text{min}$ 、吐出圧 $6.0\text{kg}/\text{cm}^2$

開発年月：1987年12月（昭和62年12月）

開 発 者：北條英二

販 売 者：柳井仁司

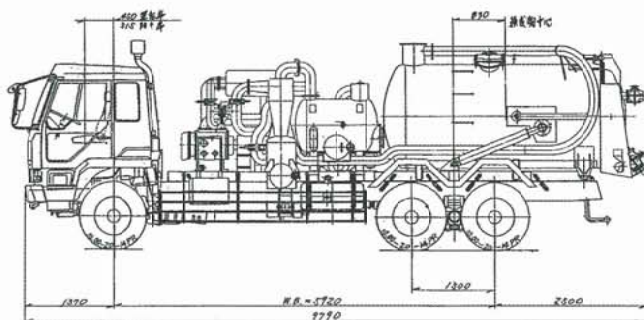
納 入 先：(株)伊佐武興業殿

納入年月：1988年1月（昭和63年1月）

エピソード：レシーバータンクが第2種圧力容器。

種々雑多な汚泥での作業は吸引圧送切り換え機構などの詰まりや閉塞に悩まされた。

1988 パワープロベスター SR-11BMWP



品 名：パワープロベスター

（メカニカルブースター付車）

開発目的： -740mmHg の高真空圧車の開発。

特 徴：BT150+メカニカルブースターBH200Aの3段ブロー搭載。

型 式：SR-11BMWP

仕 様：風量 $67.5\text{m}^3/\text{min}$ 、真空圧 -740mmHg

開発年月：1988年10月（昭和63年10月）

開 発 者：山本建二

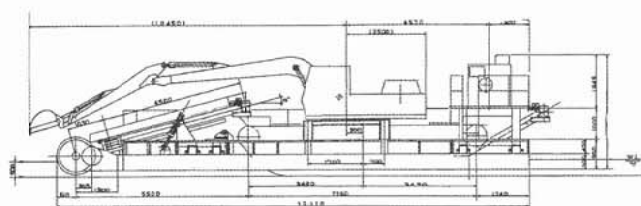
販 売 者：武市芳夫

納 入 先：セントラルサービス(株)

納入年月：1988年10月（昭和63年10月）

エピソード：納入後、低真空圧時の能力がよくなり圧力損失改善の為、配管を125Aから150Aにサイズアップする工事を行いました。また、バキュームブレーカーの設定には苦労した。

1988 水性雑草回収装置 WCB-600



品 名：水性雑草回収装置

開発目的：湖底に群生している水草を回収する。

特 徴：先端のドラムが湖底を移動しながら回転し、水草を掻きあげる。

型 式：WCB-600

仕 様：全長15110mm 全高3795mm
全幅8100mm 回収幅6m 移動速度0.5km/h

開発年月：1988年11月（昭和63年11月）

開 発 者：北條英二

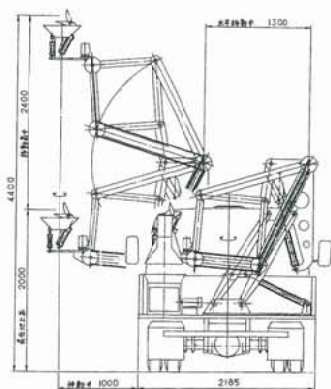
販 売 者：柳川裕司

納 入 先：(株)早水組殿

納入年月：1989年8月（平成1年8月）

エピソード：湖底に群生している水草（コカナダモ）を1日に1ヘクタール回収したいとの要求で検討した。厳寒の湖で水草を採取したときや真夜の改造の寒さがきつかった。結果、水草がとれすぎるぐらいの性能で工事終了した。

1988 自動枝打細断機 SPC-02B



品 名：自動枝打細断機

開発目的：街路樹の選定作業における省力化。

特 徴：剪定した枝を細断し、チップ化して後方回収箱に空気輸送。

型 式：SPC-02B

仕 様：4m高さまでの剪定

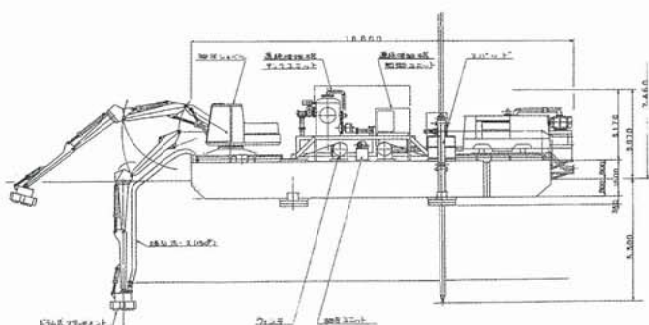
開発年月：1988年12月（昭和63年12月）

開 発 者：吉田 奨

販 売 者：補助金事業に付、販売無し

エピソード：垂直に上昇するフランス人“ポワスリエ氏”のリンクを採用した。チップ化したものはターボファンにて空気輸送した。後方回収箱はダンプカー式を採用した。刃先は土佐山田町の穂岐山刃物(株)殿に製作依頼した。

1989 真空吸引汚泥回収機 SAP-125



品 名：真空吸引汚泥回収機

開発目的：河川湖沼の水底に堆積した汚泥を連続的に真空中で吸引し遠所へ加圧圧送する。

特 徴：連続吸排機やその他必要な機材を全て台船に搭載した浚渫システム。全ての機材が分解組立しトラック輸送可能な構造としている。

型 式：SAP-125

開発年月：1989年2月（平成1年2月）

開 発 者：北條英二

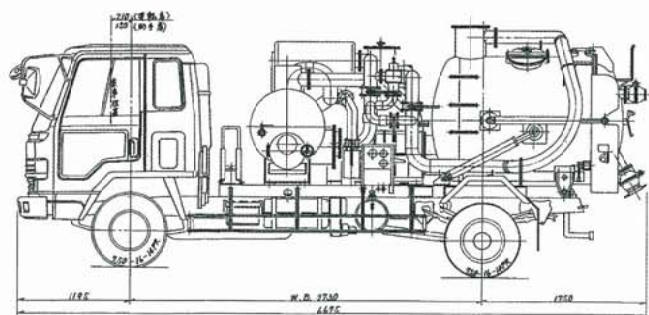
販 売 者：柳川裕司

納 入 先：(株)早水組殿

納入年月：1989年2月（平成1年2月）

エピソード：連続吸排機のデモ現場を見たユーザーと共同開発した浚渫船。当時は、製作工場探しから始める状態で、様々な業者さんの協力を頂いて完成した。初めての工事が沖縄県の工事で圧送配管が1800mの延長を見た時は本当に汚泥を送ることが出来るのか不安になった。

1989 スクリュータイプ超強力吸引作業車 SP-04BGP



品 名：スクリュータイプ超強力吸引作業車

開発目的：真空圧の立ち上がり早いスクリーポンプの搭載。

特 徴：高捕集型2次キャッチャー搭載。

型 式：SP-04BGP

仕 様：風量41m³/min、真空圧-700mmHg

開発年月：1989年4月（平成1年4月）

開 発 者：永野善彰

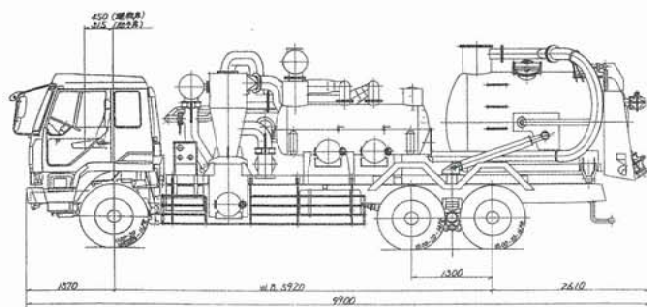
販 売 者：佃 維男

納 入 先：矢野口自工(株)殿

納入年月：1989年4月（平成1年4月）

エピソード：ポンプの重量が重く、その分レシーバー容量が減少した。また音質はルーツブロワーと異なり低音域が大きいポンプだった。

1989 パワープロベスター SS-11BWP



品 名：パワープロベスター

開発目的：ジオフロント（高深度地下開発）工事で使用するPTO駆動の高性能吸引車の製作。

特 徴：ACユニットを50m³/min×2個に分割し、集塵させた。

型 式：SS-11BWP

仕 様：風量100m³/min、真空圧-650mmHg

開発年月：1989年6月（平成1年6月）

開 発 者：永野善彰

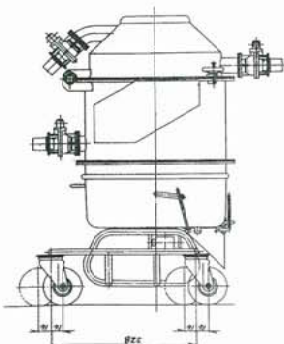
販 売 者：川崎隆義

納 入 先：東京洗管工業(株)殿

納入年月：1989年6月（平成1年6月）

エピソード：駆動ベルトの背押しをしてベルトがひっくり返った。新型の振り出し軸受を製作した。ベルト本数が多くなり過ぎるのでコグベルトを採用した。

1989 石綿回収ミキサータンク AMT-100



品 名：石綿回収ミキサータンク

開発目的：建物の解体時に発生する石綿を回収～袋詰めする。

特 徴：現場に持ち込み回収。下部は縦型ミキサー。

型 式：AMT-100

仕 様：100 L タンク

開発年月：1989年7月（平成1年7月）

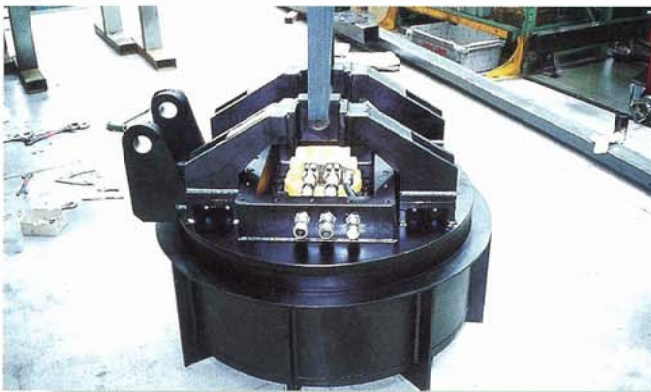
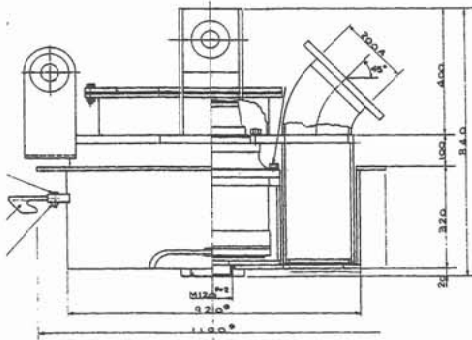
開 発 者：吉田 奨

販 売 者：武市芳夫

納 入 先：川鉄運輸(株)殿

納入年月：1989年8月（平成1年8月）

エピソード：真夏に和歌山の百貨店の解体作業に汗だくになって立ち会った。

1989 ドラムアタッチメント DAT-20

品 名：ドラムアタッチメント

開発目的：浚渫機先端アタッチメントとして開発。

特 徴：アタッチメント外側ドラムが回転し吸引口につまったゴミ等をはらいのける。

型 式：DAT-20

仕 様：吸引口200A, 回転数6~10rpm

開発年月：1989年10月（平成1年10月）

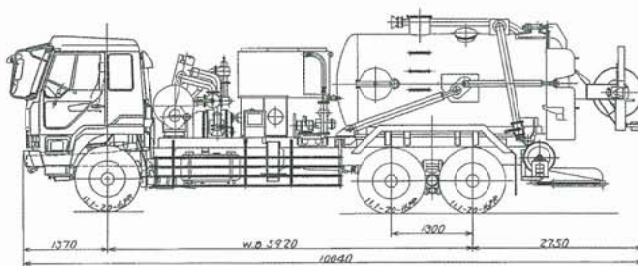
開 発 者：久米信明

販 売 者：柳川裕司

納 入 先：(株)早水組殿

納入年月：1989年10月（平成1年10月）

エピソード：浚渫機だけでなく、吸引車を使用した浚渫工事でも使用されている。

1990 モービルコンビ CS-11B JP

品 名：モービルコンビ

開発目的：高圧洗浄・汚泥吸引の同時作業ができ、かつ吸引した汚泥水を濾過し、洗浄水として再利用できる作業車を作る。

特 徴：モービルコンビ1号車

モービルバックの吸引性能があり、下水管洗浄も可能。汚泥水の濾過は3段階にて行う。

型 式：CS-11BJP

仕 様：風量18m³/min, 真空圧 -520mmHg

吐出水量200L/min

吐出圧190kg/cm²

開発年月：1990年1月（平成2年2月）

開 発 者：市川 治

販 売 者：佃 維男

納 入 先：田中産業(株)殿

納入年月：1991年2月（平成3年2月）

エピソード：濾過装置の開発、テストに多くの時間を費やした。日本ではモービルコンビはまだまだ受け入れられないのか？